# 小児科この一年

小児科医長　矢野公一

## 診療体制

平成14年1月から9月までは前年から引き続き瀧本副院長，矢野医長，片野医員，引地医員の4人体制で診療にあたりました．10月からは新卒の土田研修医が赴任しました．片野医員は小児科から総合医を目指し，現在消化器内科で研修を受けています．

一般外来は，毎日午前・午後とも2診体制で行っております．瀧本・矢野・片野・引地が担当しました．午後は予防接種，1ヶ月検診も行っております．今年度からインフルエンザの予防接種は毎週火曜の午後のみ（担当：土田）とし，小児科外来とは別の部屋を設け病児との接触を防ぐようにしました．専門外来は、旭川医大小児科より出張していただき，神経外来（沖助教授、宮本講師），内分泌外来（伊藤講師），心臓外来（津田助手）を1～3ヶ月に1回程度行っています．病棟診療は，主に引地・片野/土田が担当しました．院外業務は，乳幼児検診を瀧本・矢野，中川町のサテライト診療を瀧本が担当しました．また、年始には休日外来を行いました．

## 外来

外来患者数は，平成14年11月末の累計で一日平均113人であり前年とほぼ同等の患者数であります．2002年の特記すべき事は，なんといってもオーダリングが始まったことでしょう．外来では処方箋発行に時間がかかるため，カルテ添付用にチケット・プリンターを導入していただき関係各位に感謝しております．また，夕方や救急外来の受診が多く，看護部・検査部・医事科などにご迷惑をかけております．さらには他科受診での治療をお願いする例も多く，皆様にこの場を借りて御礼申し上げます．

## 病棟

平成14年の入院患者数はのべ958人（一般小児800人、新生児158人）でありました．一般小児のうち肺炎・気管支炎263人，気管支喘息・喘息様気管支炎114人，扁桃炎・咽頭炎106人，胃腸炎94人，熱性けいれん39人でありました．新生児では，低出生体重児は37人，呼吸障害が23名でありました．

小児科では，当日入院がほとんどのため，入院時の検査入力等はオーダリングできず手書きとなってしまいます．今後改善されることを期待しています．小児科は，新生児室を含め15床のベッドでやりくりしており，満床時には，工藤看護科長はじめ各科のお世話になっております．また，年間494名の分娩があり，少子化の中で年々増加しております．病的新生児はもとより，入院扱いにはならない健康新生児の診察にも力を注いでおります．

## カンファレンスなど

産婦人科とのハイリスク妊娠カンファレンスを月1回行っています．また，市立士別総合病院小児科と合同の抄読会を毎月行っております．

## 研究活動

学会活動としては，8演題を全国学会あるいは地方会で発表しました．また，矢野が救急フェスタ2002で「小児の救急」について市民の方々を対象に講演を行いました．論文は3報発表しました．

## まとめ

少子高齢化の時代の波の中で，あすの日本を担っていく子供達が健康に育っていけるように医療の面から貢献していきたいと思っております．